

## 審査の方針

黒田清輝

本文は黒田畫伯が新聞雜誌記者一同に話されたるを筆記したるものなり(記者)

審査員を代表して云ふ譯では無く個人として一言云つて置きたい事は本年發表した審査の結果に就て推薦と特選の解釋に不審を抱く人がある様であるから一言誤解を解いて置きたいと思ふ。

推薦と云ふのは主に經歷を第一條件とし次いで技術人格とを加味して慎重に審議の結果決定されたもので特選は主に技術を本位としたものであるから或ひは推薦された人の作品より特選の人の作品の方が優れて居るとの不審から不公平呼ばりをする者がある様に思ふが吾々でも内容を知らなければ然う思ふが前にも言つた様に推薦は經歷に重きを置いて(無論技術を無視する譯では無い)一つの資格を與へると解釋すべきである。

又鑑査の標準が高く爲た様に言ひ或は嚴重だとか云ふ者があるが是れは意味の取り方に依つては依估量員が無いとも思はれ又偶然の作も努力の作も認めない様にも取れるが大體に於て今年文部大臣から我々に訓示された未成品や浮薄な思想を宿してゐる作品は文展に陳列すべき資格が無いと云はれた事に基づいて鑑査した結果で勿論浮薄と云ふ意味は風規上の様にも取れるが技術の上にも應用する事が出来る。即ち何等主張もなく徒らに奇を好む結果外國の作品の複製品の又複製品と云ふ様な只だ流行に泥んだものにも適用される畢竟スケッチ程度以上のもので無ければ文展へ陳列の價値なしとの見地から模倣を離れて或る主張を發表した様な點に重きを置いて

審査鑑査をした。

文展も年と共に發達し洋畫の如きは著しく進歩して次第に程度が高くなつて來たが一方には文展の鑑査に及第する程度の畫を描くと云ふ様な惡風があるが這麼作家は無論翌年には落第するに極つて居る。要するに研究した結果を取ると思へば間違ひは無い。更に裸體だが今年是非常に出品が多かつたが然も入選さすべき程のものは一つも無かつた是れには日本の畫家が作品製作の上に秘密主義を執つて競争しようとした結果誰が見ても直ぐ判る缺點や不愉快な色を其儘にして置く弊風がある我國の如き洋畫の最も幼稚な時代には御互ひに缺點を指摘して研究し合ふ様に仕ないと完全な作は出來ない。

『美術之日本』九二六正六年二月